

各更新時期における新更新基準部分の必要単位一覧表

	完全移行後の 機構認定専門医 の新更新基準	学会専門医の各更新時期において必要となる 新更新基準部分の取得単位				
項 目	取得単位	2017年 1月	2018年 1月	2019年 1月	2020年 1月	2021年 1月*
i) 診療実績の証明	10 単位	2	4	6	8	10
ii) 専門医共通講習	最小 5 単位、 最大 10 単位 (このうち 3 単 位は必修講習)	最小 1 最大 2 必修講習 必須なし	最小 2 最大 4 必修講習 で 1 以上	最小 3 最大 6 必修講習 で 1 以上	最小 4 最大 8 必修講習 で 2 以上	最小 5 最大 10 必修講習 で 3 以上
iii) 外科領域講習	最小 20 単位 (このうち 5 単 位は必修講習)	最小 4 必修講習 必須なし	最小 8 必修講習 で 2 以上	最小 12 必修講習 で 3 以上	最小 16 必修講習 で 4 以上	最小 20 必修講習 で 5 以上
iv) 学術業績・診療以外 の活動実績	3～10 単位	1～2	2～4	3～6	4～8	5～10
i)～iv)の合計	50 単位	10	20	30	40	50
外科学会専門医更新	(30 単位)	24	18	12	6	0

⇒外科領域では 2018 年 1 月が学会専門医更新年にあたる方から移行措置を開始します。

1) 外科関連専門医制度委員会

委員長 兼 松 隆 之

平成 27 年 6 月 25 日に第 56 回、12 月 3 日に第 57 回総会を、本会の専門医制度委員会と合同で開催した。

1. 一般社団法人日本専門医機構の活動内容の進捗を確認した上で、新専門医制度における「外科専門研修プログラム整備基準」と「外科専門医更新基準」の内容などの確認を行い、意見を日本外科学会（日本専門医機構の外科領域委員会）に申し送った。
2. 一般社団法人日本専門医機構によるサブスペシャリティ領域のヒアリングの進捗状況について、情報交換を行った。
3. 日本乳癌学会の「乳腺専門医」と、日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会の「内分泌外科専門医」を、外科専門医を基盤とする資格の一つ（外科専門医と同時更新できるサブスペシャリティではない）として了承した。

2) 一般社団法人日本専門医機構

社員代表 國 土 典 宏

平成 26（2014）年の設立時点では基本 18 領域の代表者個人が学会の推薦を受けて社員となっていたが、当初からの基本領域学会の一致した要望を受け、平成 27（2015）年 3 月に、個人ではなくてそれぞれの学会が社員となった。その後も、学会側からは日本専門医機構に対して緊密なコミュニケーションを図るよう強く呼び掛けている。

具体的には、財務委員会の構成を刷新して社員学会・団体の代表者が半数以上参加したり、実務体制を強化するために「基本領域学会との連携の在り方に関する WG」を設置したりすることで、さらに風通しが良くなるように図っている。

なお、日本専門医機構ではプログラム認定料として 1 プログラムあたり 10 万円（うち 1 万円が当該学会の事務経費分）、専門医更新認定料として 1 名あたり 1 万円（うち 2 千円が当該学会の事務経費分）を収入としているが、当面は日本政策投資銀行から運転資金を借り入れることとなった。

事業活動としては、専門医認定・更新部門の委員会や、専門研修プログラム研修施設評価・認定部門の委員会などを中心に非常に精力的に行われており、先般の厚生労働省の社会保障審議会医療部会で、新しい専門医制度の開始を先延ばしするような意見が出されたが、日本専門医機構としては従来の計画どおりに事業を進める方針を堅持している。

4. 専門医認定委員会/予備試験委員会

委員長 古 森 公 浩

1. 平成 27 年度予備試験（筆記試験）について

第 10 回目の外科専門医予備試験（筆記試験）を施行した。申請者は 1,118 名であったが、このうち 26 名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、1,092

名を対象として、8月23日に「神戸ポートピアホテル」で予備試験（筆記試験）を実施したところ、実際は1,084名が受験した（欠席者は8名）。

9月9日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第10条第1項により、公開しない）、879名を合格と判定した。なお、正答率が30%未満であり、かつ識別指数が0.1未満であった2問（正答率：24.5%，識別指数：0.01）（正答率：26.8%，識別指数：-0.02）を不適切問題とし、この問題に不正解であれば採点対象から除外し、正解であれば除外せずに正答とした。また、選択肢の内容が不明瞭で正答が得られない問題を除外して判定を行った。

その後、さらに不適切問題が発覚したため、再判定を行い、2名を追加合格とした。したがって、最終的な合格者は881名（合格率：81.3%，合格最低正答率：62.5%）となった。

合格者氏名は、申請者数、受験者数、不合格者数、合格率とともに雑誌第117巻臨時増刊号（1）に公表した。また、今回出題した問題のうちの代表的な問題を雑誌第117巻の各号に2問ずつ解説付きで掲載するため、邦文誌編集委員会へ申し送った。

なお、出題した問題は試験問題検討委員会が作成したものの中から本委員会が選定し、承認したものであるが、平成24年度から26年度の3年間の出題問題をすべて収載した過去問題集を出版することとした。

2. 平成27年度認定試験（面接試験）について

第9回目の外科専門医認定試験（面接試験）を施行した。申請者は957名であったが、このうち4名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、953名を対象として、11月1日に「京王プラザホテル」で認定試験（面接試験）を実施したところ、実際は952名が受験した（欠席者は1名）。

11月11日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果（外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第35条第1項により、公開しない）、952名を合格と判定した。合格者氏名は、申請者数、受験者数とともに雑誌第117巻臨時増刊号（1）に公表した。

本年度は1名の受験者を対象に現地調査を行ったところ、特に問題は発見されなかった。

3. 平成27年度外科専門医更新認定業務について

本年度の対象者は有効期限が平成27（2015）年11月30日、もしくは12月31日までの外科専門医4,195名であった。対象者のうち、3,905名からの申請があったが、そのうち8名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は3,897名であった。その内訳は、①通常に更新する者：1,802名、②サブスペシャルティ外科専門医の有効期限が来年度以降のため期限を延長する者：937名、③サブスペシャルティ外科専門医の有効期限も本年度のため同時更新する者：877名、④認定登録医に移行する者：281名であった。

11月11日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、②については審査の要なく、外科専門医認定証の有効期限の延長を示すシールを発行した。③については各学会の更新審査の結果、4名が不合格と判定されたため、873名を合格とした。なお、不合格となった4名のうち2名が①の通常の更新手続き、1名が④の移行手続きを行い、条件の充足が確認できたので、それぞれを合格と判定した。そのため、①と④についてはそれぞれ1,804名、282名を合格とした。

本年度合格者氏名は、雑誌第117巻臨時増刊号（1）に公表した。

4. 平成27年度外科専門医特例更新業務について

当該年度に更新することができず外科専門医を失効した場合、資格失効後1年以内に条件を充足でき

ば外科専門医の再取得もしくは認定登録医の登録が可能である。

本年度の対象者は平成 26 年度に失効した 410 名であり、対象者のうち 54 名から外科専門医の再取得、63 名から認定登録医の登録の申請があった。

11 月 11 日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、外科専門医 54 名、認定登録医 63 名全員の特例更新を認めた。

本年度合格者氏名は、雑誌第 117 巻臨時増刊号 (1) に公表した。

5. 平成 27 年度外科専門医移行認定業務について

外科専門医制度規則第 12 条により、直近 5 年間に 100 例以上の手術実績を充足した認定登録医は外科専門医への移行申請を行うことができる。

本年度に申請を行った者は 104 名であり、11 月 11 日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、104 名全員の移行を認めた。

本年度合格者氏名は、雑誌第 117 巻臨時増刊号 (1) に公表した。

6. 平成 27 年度認定登録医更新業務について

本年度が認定登録医更新の初年度である。

本年度の対象者は有効期限が平成 27 (2015) 年 11 月 30 日までの 377 名であり、対象者のうち、202 名からの申請があったが、そのうち 5 名がオンラインによる申請登録は行ったが、申請書そのものを提出しなかった。したがって、審査対象者は 197 名であった。

11 月 11 日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、197 名全員の更新を認めた。

本年度合格者氏名は、雑誌第 117 巻臨時増刊号 (1) に公表した。

7. 日程について

今年の日程、および会場は以下のとおりである。

- ・予備試験（筆記試験）…日時：8 月 28 日（日）13 時～16 時
会場：神戸ポートピアホテル（兵庫県神戸市）
- ・認定試験（面接試験）…日時：11 月 6 日（日）
会場：京王プラザホテル（東京都新宿区）

5. 指定施設指定委員会/指導医選定委員会

委員長 松 居 喜 郎

1. 平成 27 年度指定施設指定業務について

本年度も 7 月中に雑誌ならびにホームページを通じ、指定施設および関連施設の申請手続きを行うように、オンラインを介して通知した。また、指定期間中の指定施設に対しては、同様にオンラインを介して年次報告を行うように通知した。8 月 31 日に申請を締め切ったところ、指定施設として 139 施設、関連施設として 840 施設の申請があった。

所定の手続きを経て、11 月 11 日付文書で持ち回り委員会を開催し、指定施設基準に準拠して慎重かつ公正に審議を行ったところ、指定施設として 139 施設、関連施設として 839 施設を指定した。指定施設の指定期間は平成 28 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月末日まで、関連施設の指定期間は平成 28 年 1 月 1 日か

ら同年12月末日までである。なお、この結果は理事会で決議されたので、雑誌第117巻臨時増刊号(1)に公表し、それぞれ外科専門医制度修練施設証、外科専門医制度関連施設証を交付して、各施設長宛に送付した。

したがって、現指定施設数1,222施設、現関連施設数850施設である(平成28年1月末日現在;条件を満たせば、指定施設から関連施設への移行は随時認めている)。

本年12月末日で指定期限切れとなる施設に対しては、7月中に文書および雑誌ならびにホームページなどを通じて、指定施設もしくは関連施設の更新手続きを行うよう通知する予定である。同じく、指定期間中の指定施設に対しては、年次報告を行うよう通知する予定である。

また、指定を受けていない施設は、指導医および修練医の在籍がある場合に限り、年度の途中から指定を受けるための関連施設の仮指定申請を行うことができる。仮指定申請は本年度が初年度となる。

本年度は14施設から申請があった。仮指定の申請を行った施設は実績報告書の提出をもって本指定となるため、1月22日を期限として実績報告書提出の受付を行った結果、10施設は全ての条件を充足していたが、残りの4施設は申請時よりも実際の指導医・修練医の在籍期間が短かった。

1月22日付の持ち回り委員会にて審議した結果、全ての条件を充足していた10施設の仮指定期間をそのまま本指定とし、4施設については指導医・修練医が在籍していた期間のみを本指定とした。

2. 平成27年度指導医選定業務について

本年度は、2月中旬から指導医の申請受付を行った。6月1日に申請を締め切ったところ、438名からの申請があった。このうち、事前に申請を取り下げた者が7名であった。したがって、審査対象者は431名であった。

所定の手続きを経て、9月1日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった2名を不合格とし、429名を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名は雑誌第117巻臨時増刊号(1)に公表した。

3. 平成27年度指導医更新選定業務について

例年通り取得から5年が経過した指導医の更新選定業務を行った。本年度の対象者は平成22年度に新規選定により取得、または更新選定により取得した1,154名であった。選定申請と同じく6月1日に申請を締め切ったところ、969名からの申請があった。このうち、所定の申請書を提出しなかった者は3名、事前に申請を取下げた者は3名であった。したがって、審査対象者は963名であった。所定の手続きを経て、9月1日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、業績の条件を満たしていなかった4名を不合格とし、959名を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名は雑誌第117巻臨時増刊号(1)に公表した。

4. 平成27年度指導医再選定業務について

申請資格を満たせず更新が行えなくても、失効後2年以内に更新条件を充足できれば再選定を認めることとしている。

本年度の対象者は630名(平成25年度:209名、平成26年度:421名)であり、所定の申請書でのみ申請を受け付けた。選定申請および更新申請同様に6月1日に申請を締め切った結果、71名からの申請があった。所定の手続きを経て、9月1日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果、71名全員を合格と判定した。この結果は理事会で決議されたので、合格者氏名は雑誌第117巻臨時増刊号(1)に公表した。

6. 医学用語委員会

委員長 藤原 俊 義

1. 外科学用語集について

平成15年5月に過去発刊してきた「外科的手術用語集」「外科的疾患用語集」「外科略語集」を1冊にまとめ「外科学用語集」を発刊しており、収録された用語数は英和約7,800語、和英約8,500語、略語約1,600語であり、産婦人科、整形外科、形成外科など周辺領域の用語も取り入れている。

なお、発刊以降改訂していなかった外科学用語集は、全面改訂ではなく一部改訂することが理事会で決定し、平成25～26年に掛けて本会Web上で広く会員から意見を募集した上で、本委員会にて意見集約やチェックなどを行い、平成27年4月からWeb版に反映した。

2. 外科学用語集 Web版について

本会ホームページにて外科学用語集のWeb版を公開している。

利用状況は、毎月平均で3,496件程度のアクセスがあり、一人あたり平均8ページを閲覧している。

3. 日本医学用語辞典について

本委員会では、日本医学会より発刊されている「日本医学用語辞典」の編集も関与し、用語のチェックも行っている。

Ⅲ. 研究

7. 邦文誌編集委員会

1) 旧邦文誌

委員長 古 森 公 浩

邦文誌（日本外科学会雑誌）について

日本外科学会雑誌は、年間9巻（通常号6巻，臨時増刊号3巻）を発行していたが，第116巻からは『臨時増刊号（2）「第115回定期学術集会抄録集」』が完全電子化となったため，年間8巻（通常号6巻，臨時増刊号2巻）を発行した。

1巻あたりの制作部数は約38,000部であり，平成27年11月までに第116巻第6号を会員に配本した。

邦文誌の内容

1. 会員より原稿を募る

症例報告，研究速報，特別寄稿，総説，随筆，提言，出席した学術集会の感想文，私の療養体験，会員の近況報告，私の作品（写真，絵，短歌，俳句など）

2. 原稿依頼

- a. 特集（第98巻第8号より編集委員により企画）
- b. 会員のための企画（会員に役立つような内容を企画）
毎号，「医療訴訟事例から学ぶ」を掲載している
- c. Editorial（編集委員が執筆）
- d. 手術の tips and pitfalls（図を中心とした手術の工夫やコツ）
- e. 卒後教育セミナーの講演要旨（第48回卒後教育セミナーより掲載）
- f. 特別寄稿（現在話題となっている内容を依頼）
昨年の第116巻は女性外科医師関係や特定看護師などの内容で計14篇を掲載した。
- g. 会員へのメッセージ（第112巻第1号より本会各委員長から一般会員へ委員会の現状を報告するための企画）

3. 掲載料金

- a. 総説，症例報告5万円
- b. 研究速報3万円
- c. 特別寄稿，随筆，提言，学会出席者の感想文，私の療養体験，会員の近況報告，私の作品（写真，絵，短歌，俳句など）無料。枚数超過の場合は1万円
- d. 学会・研究会案内1/3頁2万円

4. 依頼原稿執筆料

会員は5万円，非会員は10万円。（企画の前文，Editorial，会員へのメッセージを執筆する本会役員，編集委員・幹事は無料）

なお，本誌のQualityを向上させるため英文抄録のCheckを第99巻第1号よりMs. シンシア氏に1編2,250円にて依頼している。

5. 「医療訴訟事例から学ぶ」の書籍化について

日本外科学会雑誌では、「会員のための企画」において、平成15年発行の第104巻第6号より毎号、テーマを「医療訴訟事例から学ぶ」として、過去の医療訴訟の事例を基に弁護士の立場から執筆いただき、平成27年発行の第116巻第6号までに87事例を掲載した。

理事会の決議により、この87事例から47事例を抜粋し、書籍として平成28年4月から販売している。

2) 新邦文誌

委員長 金子 公一

日本外科学会雑誌のリニューアルについて

理事会の決議により、「新邦文誌編集委員会」が設立され、平成28年1月発行の第117巻第1号から誌面をリニューアルした。その編集作業のため、新邦文誌編集委員会を4カ月に1度開催している。

また、平成28年3月までに第117巻第2号を会員に配本した。

新邦文誌の決定事項について

1. 学会誌として継続する。
2. 現行どおり隔月発行とする。
3. 出版社は、「大村印刷株式会社」とする。
4. 頁数は、基本的に150頁程度とする。
5. 配本について
 - 1) 平成28(2016)年の第117巻はこれまで通り全会員に配本するが、平成29(2017)年の第118巻からの配本は希望制とする(配本、送料にあたっての会費以外の料金徴収はしない)。
 - 2) 配本を希望されない場合でも、Online Journalでの閲覧は可能である。
 - 3) 配本希望制のアンケートは第117巻第2号以降に葉書、FAX回答用紙を同封して実施している。
 - 4) 配本希望の申し出を受けた場合は、改めて配本中止の申し出があるまで、継続して配本する。
 - 5) 途中で配本中止の申し出を受けた場合は、翌年発行の巻から配本中止とする(当該年の第6号までは配本する)。
 - 6) 配本を希望されなかった場合も、改めて配本希望の申し出があれば、その翌年発行の巻から配本する。
6. 臨時増刊号の取り扱いについて
 - 1) 臨時増刊号(1):「外科専門医制度による各種資格業務に関するお知らせ」
これまで通常号に掲載していた「外科専門医制度による各種資格業務に関するお知らせ」は、毎年1月発行の『日本外科学会雑誌臨時増刊号(1)』に掲載して、配本した。
なお、今後も原則として通常号には掲載しないため、この臨時増刊号(1)は、配本希望の有無にかかわらず毎年、全会員に配本する。
 - 2) 臨時増刊号(2):「定期学術集会日程号」
この臨時増刊号(2)も、配本希望制の有無にかかわらず毎年、全会員に配本する。
なお、本年度分は既に全会員に配本した。
 - 3) 定期学術集会抄録集
昨年の第115回定期学術集会から抄録集を印刷せず、完全電子化したため、抄録集(雑誌)は廃止した。

4) 臨時増刊号 (3) : 記録号

記録号の発行は廃止とし、通常号 (6 巻) に振り分けての掲載とする。

7. 年間 8 巻 (通常号 6 巻, 臨時増刊号 2 巻) の発行とする。

8. 掲載の企画について

現行の企画の「Editorial」「会員へのメッセージ」「特集」「会員のための企画 (医療事例から学ぶを含む)」「手術の tips and pitfalls」はそのまま引き継ぎ、以下の新たな企画を追加した。

1) 「先達に聞く」について

特別会員や名誉会員などに過去の経験談を執筆いただくことが目的であり、「原則は若手外科医の声と交互に隔号での掲載として、多数の執筆候補者が挙げられてきた場合はその限りではない」としている。

2) 「若手外科医の声」について

40 歳以下の若手会員に自由に執筆いただくことが目的であり、「原則は先達に聞くと交互に隔号での掲載として、多数の執筆候補者が挙げられてきた場合はその限りではない」としている。

3) 「理想の男女共同参画を目指して」について

所管の男女共同参画委員会と連携して、女性医師関連 (労働環境, キャリアパス) などを中心に執筆いただき、毎号での掲載としている。

4) 「外科専門医試験問題解説」について

所管の専門医認定委員会と連携して、「試験問題」と「解説」を毎号での掲載としている (年間 12 問/10 領域)。なお、解説の問い合わせには応じないこととしている。

5) 「講演の記録」について

定期学術集会「特別企画」、卒後教育セミナー (春・秋)、生涯教育セミナー (7 地区)、臨床研究セミナー (春・秋) の「講演の記録」を、通常号に掲載することが決定している。

9. 原稿投稿規定について

旧邦文誌の投稿規定を引き継ぐこととする。

10. 各企画の依頼原稿料について

基本的に旧邦文誌から引き継ぐこととする。

1) 会員は 5 万円, 非会員は 10 万円 (企画の前文, Editorial, 会員へのメッセージを執筆する本会役員, 編集委員・幹事は無料)。

2) 外科専門医試験問題解説は会員・非会員ともに一律 3 万円。

3) 特別企画, 並びに各セミナー記録は会員・非会員ともに一律 5 万円。

8. 英文誌編集委員会

委員長 土 岐 祐一郎

英文誌 (Surgery Today) について

本誌は、年間 12 冊, 電子ジャーナルを含めて約 40,000 部を発行している。平成 27 年度中に 48 ヶ国 825 編の投稿があった。同年発行の第 45 巻には 244 編が掲載され、平成 27 年度の採用率は 25.0%であった。

2011 年 11 月より Online First での出版を開始している。Online First の出版により号の出版を待たずに論文ごとの電子版の出版が可能となり、入稿から掲載までの期間は約 1 ヶ月となっている。Online First に掲載された論文は、電子版出版は正式な出版と認められており DOI (Digital Object Identifier) のコー

ドにより、頁なしでも引用可能である。2015年のOnline Firstの出版による論文数は、Review：32編、Original：136編、Case report：63編、Short Communication：1編、How to do it：10編、Letter to the Editor：2編となっている。

Surgery Today Table of Contents について

平成27年2月よりSpringerへのデータ提供を4回行った。オプト・アウト方式で会員各位（33,124名）に毎月配信をおこなっている。

Instruction for Authors 改定について

臨床試験番号の記載（Clinical Trials Registration）または書類提出を義務化する内容を追記した。

IRB番号がある場合は記載をすること、IRB番号がない場合、番号が変わる文面を記載することにした。

引用文献について

Surgery TodayがVol.45まで順調に発刊され、2014年のImpact Factorは2013年の1.208を大きく超える1.526と公表された。2015年のImpact Factorに関しては、1月5日現在の集計上（2013年と2014年のSurgery Today掲載論文が2015年の掲載論文に引用された数）1.045となっている。今後集計を続けて、2015年のIFが2016年の7月末に確定、発表されるが、Springerの予想値では、2014年より若干下がること報告された。

分母（2013年と2014年の掲載論文数）は大幅に増えているが、掲載論文の割合はできるだけIFへの影響を減らすために、Case Reportの掲載の割合が大きくならないよう考慮して掲載していた。低下の要因として、分子（2013年の出版論文と2014年の出版論文が2015年の掲載論文に引用された回数）が減少したためと考えられる。

Impact Factor 2014のOriginalの平均引用回数は、1.5回と非常に高かったため、1.3くらいに下がるのではないかの予想である。

各article typeの平均引用回数は、Impact Factorが確定してからでないと比較できないため、毎年、夏の編集会議でアニュアルレポートとして詳細な分析を報告している。

その対策として昨年、代議員と編集委員各位にSurgery Todayに掲載された論文を引用いただくよう、掲載論文リストと共に配信した。そして、代議員各位にReviewの執筆依頼を行った結果、105名より承諾の回答があり、すでに42名から執筆をいただいている。

今回もImpact factorに1回として数えられる論文（2012年～2014年に掲載されたCase Reportを除いた論文）の一覧表を用意し、委員各位に電子媒体で配布することとした。今後もImpact factorを上げるためには、Surgery Todayへの投稿、他誌への投稿、またはAssociate Editorの判定結果を下す際に著者へ引用するよう奨励することを確認した。代議員の先生方には、引用可能文献リストを送付させていただく予定なので、教室の先生方が投稿される際には、本誌を引用いただくよう是非お願いしたい。

平成18年に研究助成委員会が廃止され、本委員会が研究奨励賞の授賞者選定を引き継ぐこととなった。本年度第22回の授賞者を下記の如く決定させていただいた。

最後に、投稿原稿数の増加とともに編集委員並びに代議員の負担も年々大きくなっており、この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

第22回研究奨励賞授賞者 5名

研究奨励賞受賞者

李 基成 (東京大学大学院 医学研究科 消化管外科)

Effects of body mass index (BMI) on surgical outcomes : a nationwide survey using a Japanese web-based database 45 : 1271-1279

川崎 貴秀 (大分大学消化器・小児外科)

Effects of sleeve gastrectomy and gastric banding on the hypothalamic feeding center in an obese rat model 45 : 1560-1566

岩田 剛和 (千葉大学大学院 医学研究院 呼吸器病態外科学)

Experience with perioperative pirfenidone for lung cancer surgery in patients with idiopathic pulmonary fibrosis 45 : 1263-1270

田中 恒有 (心臓病センター榊原病院 心臓血管外科)

Investigation of the surgical complications during thoracic endovascular aortic repair : experiences with 148 consecutive cases treated at a single institution in Japan 45 : 22-28

島田 慎吾 (北海道大学医学研究科 消化器外科 I)

Hydrogen sulfide augments survival signals in warm ischemia and reperfusion of the mouse liver 45 : 892-903

掲載原稿種別表

年次	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
巻数	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
投稿数	102	142	164	181	151	179	197	208	275	268	322	339	419	443	429	438
掲載数	89	83	76	87	119	116	119	120	107	206	222	211	212	245	281	271
採用率 (%)	87.3	58.5	46.3	66.4	78.8	64.8	60.4	57.7	38.9	76.9	68.9	62.2	50.5	55.3	65.5	61.9
Editorial	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	9	1
Review	4	12	4	6	5	7	6	1	7	1	5	5	3	2	1	1
Original	77	50	44	47	71	59	67	67	59	107	106	101	82	120	102	100
Case Report	0	12	19	25	33	44	38	47	37	89	93	88	99	97	152	145
Short Communication	5	7	9	6	6	2	7	5	3	7	8	5	9	9	6	9
How to do it	3	1	0	3	4	1	1	0	1	2	10	12	7	10	11	14
Others	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	12	0	0	1
Impact Factor							0.21	0.223	0.188	0.163	0.118	0.171	0.209	0.233	0.303	0.379

年次	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15
巻数	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
投稿数	424	509	607	667	623	566	926	948	1099	1232	1165	1245	1525	1408	1059	728
掲載数	239	247	243	214	238	216	231	235	231	220	217	314	226	256	381	244
採用率 (%)	56.4	48.5	40.0	32.1	43.9	38.2	24.9	24.7	21.0	17.8	18.6	25.2	14.8	18.2	35.9	25.0
Editorial	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	0
Review	4	2	3	0	8	13	5	10	11	19	37	30	13	24	36	32
Original	97	86	88	76	102	102	102	75	85	74	76	108	93	130	215	136
Case Report	129	142	146	134	113	91	109	137	120	106	91	161	102	74	108	63
Short Communication	2	6	2	2	2	1	1	2	6	4	2	5	3	5	3	1
How to do it	7	11	4	2	13	8	10	10	5	15	7	9	13	14	8	10
Others	0	0	0	0	0	1	4	1	3	2	2	0	2	7	11	2
Impact Factor	0.356	0.480	0.501	0.528	0.553	0.478	0.698	0.679	0.804	1.050	1.057	1.224	0.963	1.208	1.526	

投稿数内訳

Original	149	166	196	222	174	146	232	264	297	366	357	416	542	524	478	540
Others	275	343	411	445	449	420	671	683	807	873	809	837	983	884	581	188